

令和4年度 ゆいの杜小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな関わりを生かして、よりよく生きる子供を育む

(2) 目指す子供像

- 学ぶことを喜ぶ子供 (知)
- 他と豊かに関わる子供 (徳)
- 自分を大切にすること子供 (体)

学校の合言葉 笑顔いっぱい 友だちいっぱい みんな大好き ゆいの杜小

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「未来に向かって、共に学びをつくる学校」

- 様々な人との関わりを通して、自分の学びをつくる学校
- 教職員一人一人が力を発揮できる学校
- 地域と共に子供を育む学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 夢の実現に向けて主体的に取り組む児童の育成
- (2) 教職員の資質向上及び働き方改革の推進
- (3) 地域とともにある学校づくりの推進

[清原地域学校園教育ビジョン]自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成 2nd stage ～人との豊かな関わりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに県の方針や「第2次学校教育推進計画（うつのみやいきいき学校プラン）」・「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。
- (2) 本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
- (3) 新学習指導要領及び宇都宮市小中一貫教育の趣旨を生かし、確かな学力を身に付けるための適正な時数の確保に努める。また、新学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。
- (4) 各教科・道徳・総合的な学習の時間等、相互の関連を図った系統的・発展的な指導を心掛け、児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお、「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努めたい。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・教職員がチームとして諸問題に取り組むことによる、教育活動の質の向上
- ・業務の明確化やICT機器の活用等による業務の改善
- ・地域の教育力を生かした特色ある教育活動の推進

【 学 習 指 導 】

- ・豊かな関わりを生かしながら、学びを喜ぶ児童の育成
～コミュニケーション力を育成するための指導の工夫～

【 児 童 生 徒 指 導 】

- 相手に自分の思いを伝え、積極的に関わり合える児童の育成
～人とのつながりを大切にする、あいさつ運動や集会活動等の充実～

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自らの健康・体力の維持向上に関心をもち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ・高学年における教科担任制や道徳科のローテーション授業を実施し、複数の教職員が児童一人一人の頑張りにや良さを積極的に認めたり称賛したりすることで、児童が自信を深め、意欲的に学習に取り組めるように支援する。 ・学校課題のコミュニケーションを身に付けるための指導の在り方を研究し、コミュニケーション力を伸ばす手立てを広げる。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100%、児童 91.5%、保護者 90.9% いずれも数値指標を上回った。 ・教科担任制や道徳のローテーション授業を効果的に実施することで、学習意欲を高め、学習内容の定着を図れた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・教科担任制の研究をより深める。
	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を取り入れ、上級生が下級生に関わる場を積極的に設定する。 ・道徳科の授業と他教育活動との関連を図り、思いやりのある豊かな心情を育む。 ・日常生活の中で、児童の親切な行動を称賛したり、紹介したりしていく。 ・思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識付けを行う。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100%、保護者 94.6% 地域住民 100%、児童 91.7% 数値指標をすべて上回った。 ・年2回の清掃班の編制やレインボータイムでの活動を機会に捉え、上級生と下級生の関わりの場を設定できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に児童の親切な行動を称賛する機会を確保した。 ・感謝の言葉を伝えることを生活目標として設定し、児童同士の親切な行いに対する気付きや称賛を促した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組を継続する。さらに、思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識付けを行う。

目 指 す	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○「ゆいっこの約束」を活用し、望ましい行動習慣の形成を促すとともに、よくできたことについては積極的に称賛し、児童の意欲を喚起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標との関連を図って週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、保護者の協力を得る。 ・生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えるとともに、学年やクラスの実態に応じて重点的に指導する。 ・児童の望ましい行動やよくできたことを称賛する機会を日常的にもつ。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 97.4%、保護者 95.4% 地域住民 100%、児童 89.4% 数値指標をすべて上回った。 ・「ゆいっこの約束」の家庭への配付により、望ましい生活習慣の形成を促したり児童を称賛したりすることができた。 ・きまりやマナーに関する生活目標を設定することで、意識向上を促した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組を継続させる。 ・生活のきまりを定期的に振り返らせ、自己評価させるとともに実態を把握し、必要な指導を行う。 ・児童の望ましい行動やよくできたことを称賛する機会を日常的にもつ。
す 児 童 の 姿	<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○常時指導を強化するとともに、児童会主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が率先してあいさつし、児童へのあいさつ意識を高める。 ・保護者や地域に運動の様子をHP等で発信し、あいさつの励行等を保護者・地域と共に行い、連携・協力の輪を広げていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 児童 92.5%、教職員が 76.9% 保護者は 81.3%、地域住民が 100% 数値指標を児童・地域住民は上回ったが、教職員・保護者は下回った。 ・清原中学校と合同で年2回のあいさつ運動を行い、意識付けを図ることができた。 ・あいさつに関する生活目標を設定することで、意識づけを図ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を引き続き行いつつ、強化週間を設け、意識向上を図る。 ・保護者や地域に運動の様子をHP等で発信し、あいさつの励行、ポケットに手を入れない指導を保護者・地域と共に行い、連携・協力の輪を広げていく。
	<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会活動、学級の係活動において、児童が主体的に活動できる場を随時設定し、個人や集団で目標達成に向けて根気強く組めるよう支援する。 ・学び合う場や協力し合う場を意図的に設定し、共に高め合い、励まし合いながら学習に取り組むことができるよう支援する。 ・コロナ禍の中で学習や学校行事等において、目標を明確にし、ゴールを意識させることで、児童が見通しをもって努力し続けることができるようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100%、児童 90% 保護者、74.8% 数値指標を児童と教職員は上回ったが、保護者は下回った。 ・行事等が昨年度より増え、児童が主体的に活動できる場の中で、個人や集団で目標達成に向けて支援することができた。 ・各クラスでは、係活動や当番活動を自主的に取り組む姿が見られた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も児童が活躍する場を工夫していく。

目 指 す 児 童 の 姿	<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食だより、保健だより等を活用し朝食の大切さや偏食について、保護者へ啓発を図る。また、「朝ごはん食べよう週間」を設定し、望ましい食生活の習慣化を図る。 ○「キラキラウィーク」を実施し、児童の歯磨きと朝食に関する実態の把握と啓発を図る。 ・登校班長会議や登下校指導、休み時間の生活指導を行い、事故の未然防止を意識させるとともに、自ら安全に生活しようとする習慣を身に付けさせる。 ・避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、「ゆいっ子の約束」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。 ・学校生活の中の危険について職員であらかじめ共通理解を図りながら、児童の指導にあたる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 児童 92.8%、教職員 100% 保護者が 89.1% いずれも数値指標を上回った。 ・健康安全共に授業や学校行事を通して、意識化を図るとともに、学校生活の中で児童の実態を把握し、適宜指導できた。 ・登下校の指導では、登校指導や学年下校指導を通して事故を未然に防ぐことができた。 ・年間3回の避難訓練（地震火災・竜巻・不審者）や1年生の引渡し訓練を実施し、各学級において発達段階に応じた振り返りにつなげた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も児童数が増加することを踏まえ、学校生活の中の危険について職員であらかじめ共通理解を図りながら、児童の指導にあたる。 ・保護者や地域の安全ボランティアと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにさせる。
	<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上 〔A 5再掲〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会活動、学級活動、クラブ活動において、児童一人一人が自分の役割を果たせるようにするとともに、活動を振り返り、今後の生活に生かせるよう支援する。 ・「結ゆいプロジェクト」を推進するとともに、道徳科や学級活動を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 ・ローテーション道徳により、他学級の児童の良さを教員同士で共有したり、キャリアパスポートを活用して、児童に自分の夢と向き合うきっかけを作ったりする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100%、児童 90% 保護者 74.8% 数値指標を児童と教職員は上回ったが、保護者は下回った。 ・ローテーション道徳などで、一人の教員だけでなく学年の教員が他学級の児童の良さを知り、共有する時間を設けた。 ・総合的な学習の時間では、ゆいの杜の未来を考えたり、地域や社会の課題を考えたりする時間が確保された。 ・キャリアパスポートを活用し、児童が自分の夢と向き合う時間を設けた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人だけでなく、学級全体、児童会活動などにおいても、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・今年度同様、様々な教育活動の中で、全児童の良さを教員で共有する。 ・ねらいをより明確にし、結ゆいプロジェクトの充実を図る。

目 指 す 児 童 の 姿	<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTを効果的に活用し、英語でのコミュニケーションに親しむ機会の充実を図る。 ・ALTによる読み聞かせ等を実施し、授業以外にも英語に親しめるよう努める。 ・英語専科教員が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 児童 89.8%、教職員 100% いずれも数値指標を上回った。 ・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。 ・豊富な資料を効果的に授業に活用することができた。 ・校内に英語の掲示物を設置し、触れる機会を増やした。 ・給食時に英語の絵本の読み聞かせビデオを流し、授業以外でも英語に親しむ機会を設けた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語科主任が中心となって職員研修の機会を設け、教職員の資質向上を図る。
	<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで本地区への理解を深める。 ・清原・ゆいの杜の地区の協力を得て、地域のよさを学習する機会を設ける。 ・学年便りや学校便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 児童 83.6%、教職員 89.7% 保護者 65.8% 数値指標を児童と教職員は上回った。保護者は下回った。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間や道徳、外国語科を通して、宇都宮のよいところを探したり、他の地域と比べたりすることができた。 ・校内放送で「宇都宮の歌」を流すことで、自分たちの住む宇都宮を知るための機会を設けた。 ・給食では、「宮っ子ランチ」を実施し、地産地消の考えを促した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで理解を深める。 ・清原・ゆいの杜の地区の協力を得て、地域のよさを学習する機会を設ける。 ・学年便りや学校便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。

<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域において、一人1台のタブレットを効果的に活用した授業を発達の段階に応じて継続的に実施する。 ・プログラミング教育において、児童にパソコン活用に対する必要性の意識を高めていく。 ・担任と学校図書館司書が連携を深めながら、各教科の調べ学習において、学校図書館の積極的な活用を図る。 ・図書とタブレットのどちらも活用できるように、意図的に調整する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 児童 89.9%、教職員 100% いずれも数値指標を上回った。 ・教科を問わず、調べ学習を通して、積極的にタブレットを活用した授業を行うことができた。 ・学校図書館司書と連携し、テーマに応じた本を集めてもらい授業の展開に活用した。 ・デジタル教科書や実物投影機を使用し、視覚的に分かりやすい授業に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内読書週間を次年度も実施し、本に触れる機会を確保し、各教科での調べ学習などにも活用するなど、自分が興味ある分類の本以外にも積極的に読めるように促す。 ・プログラミング教育においても児童のタブレットに対する必要性の意識を高めていく。 ・図書とタブレットどちらも活用できるように、時間を意図的に調整する。
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上 〔A2再掲〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策に配慮しながら昔遊びや出前講座等、高齢者と触れ合う機会を設定し、交流を図る。 ・行事に関わっていただいたボランティア等の活動をHP等で情報を発信していく。 ・ボランティアで支援を受けた体験を振り返り、感謝の気持ちを手紙で書く機会を設けるとともに、教職員が高齢者を意識した声掛けなどを行っていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100%、保護者 94.6% 地域住民 100%、児童 91.7% 数値指標をすべて上回った。 ・感染防止対策を行いながら、火おこし体験や昔遊び、読み聞かせ、登下校での見回り等の機会を設け、高齢者の方と関わる機会があった。 ・行事で関わり合いがあった後や、各ボランティアで支援を受けた体験を年度末に振り返り、感謝の気持ちを手紙で表す機会を設けた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行った行事に関して、HP等で情報を発信していく。 ・感謝の気持ちを手紙で書く時などに、教職員が高齢者を意識した声掛けを行っていく。

<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の学習を通し、身近な自分の生活と持続可能な社会との関わりを考えさせるなどして、福祉や環境、異文化交流への関心を高める。 ・生活科や理科、道徳の授業、委員会活動を通して、環境保全に目を向けたり動植物を思いやる心を育てたりする。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。 ・環境委員会の活動内容を状況に応じて、幅を広げていくとともに、「持続可能な社会」や「SDGs」についても発信していけるようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 児童 87.7%、教職員 79.5% 児童は数値指標を上回ったが、教職員は下回った。 ・環境委員会の「リサイクル用紙回収」やPTAの「ペルマーク回収」などを通し、環境への意識や思いやる心を高めた。 ・総合的な学習の時間で、環境に対する意識やこれからできることを考えたり、盲導犬とのふれあい体験を行ったりする中で、福祉への理解を深めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施した活動の結果を各種便りや校内放送で周知することで、共通理解を図る。 ・物を大切にすることを育むために、物への記名を啓発したり、学校の備品を将来の児童も使用できるように意識させたりする。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。 ・各委員会と連携して、「持続可能な社会」や「SDGs」についてもより身近にしていけるようにする。
<p>B1 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>○「清原っ子の約束」「ゆいっ子の約束」「家庭学習のすすめ」を活用したり、「家庭学習ふり返り週間」を年2回設定したりして、家庭学習の重要性について保護者への啓発を図り、指導の効果を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動で家庭学習の仕方を指導し、目安となる時間や内容を提示したり、実践している児童を称賛したりして、児童が家庭学習に取り組もうとする意欲を高める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 97.4%、児童 84.9% 保護者 73.4% 教職員と児童は数値指標を上回ったが、保護者は下回った。 ・「家庭学習ふり返り週間」の設定により、学習習慣の定着が図られつつある。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清原っ子の約束を年間通して使用できるように配付の仕方を工夫する。 ・家庭との連携を図り、自主的に学習に取り組む態度を養いたい。 ・それぞれが明確なめあてをもつ時間を学級活動などで設けて、意識して取り組めるようにする。 ・「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「家庭学習ふり返り週間」を年に2回設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会を通して教職員間の情報共有を図るとともに、学級や学年間の情報交換を密にして広く児童理解に努め、組織的に児童の支援に当たる。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を図りながら、個に応じた支援を展開する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員が100% 数値指標を上回った。 ・年間2回の校内支援委員会や月1回の情報交換会、日常的な教員同士の情報交換で共通理解を図り、適切にケース会議等を行うことにより、一人一人のニーズに応じた組織的な支援を行うことができた。 ・迅速かつ適切な役割分担の下、ケース会議を行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を行うとともに、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して解決に努める。また、必要に応じてケース会議の開催をする。
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めるとともに、いじめは許されない行為であることを徹底指導できるよう、様々な機会を生かして継続的な指導を行う。 ・道徳科において、いじめに関わる授業の充実を図るとともに、児童の小さな変化にも気を配ることで、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・スマートフォンや携帯電話の使い方については、各学級、学年において実態に応じた指導を行う。 ・いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に組織的に対応できるよう、全教職員が報告・連絡・相談を確実に行う。 ・いじめゼロ強調月間の活動等、学校での取組を児童指導だより等で、保護者に発信していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員100%、児童96.5%、保護者79.9% 教職員と児童はと数値指標を上回ったが、保護者は下回った。 ・いじめゼロ強調月間を通して児童への啓発を行ったり、いじめに関するアンケートや教育相談を基に事実の把握をしたりすることができた。また、日常的な指導の中で、いじめは許されないことを継続して指導してきた。 ・スマホ・ケータイフィルタリング設定100%キャンペーンを機会に、全学級で同日に行うことで効果的な指導ができた。また、リーフレットやメール配信により、保護者への啓発にもなった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に組織的に対応できるよう、全教職員が報告・連絡・相談を確実に行う。 ・いじめゼロ強調月間の活動等、学校での取組を児童指導だより等で、保護者に発信していく。 ・日頃の道徳教育や日常でいじめについての指導を適宜行っていく。
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ・「結ゆいプロジェクト」を推進し、様々な人との関わりを重視し、良好な関係を築く。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援をする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員100%、保護者88.8%、児童94.8% 教職員と児童はと数値指標を上回ったが、保護者は下回った。 ・教職員の不登校に関する意識は高く、職員会議などで常に情報交換を行い、同じ認識の下、児童に関わることができている。 ・学年会が頻繁に行われているため、学年間の交流が行われている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会や学年だよりを通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報を提供していく。

目 指 す 児 童 の 姿	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 〔A13再掲〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語ボランティアを活用し、個に応じた日本語指導を充実させる。 ・日本語指導での学びが学級内で生かされ、当該児童の学校生活の充実につながるよう、担任との連携を密にする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100% 数値指標を上回った。 ・日本語ボランティアを活用し、個に応じた学習を行うことができた。 ・保護者と密に連絡し合い、連絡帳だけでなく電話で直接話すなど工夫をした。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も国外からの児童の編入学が予想されるため、より一層当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを充実していく。 ・今年度同様、日本語ボランティアを活用し、担任と連携をしながら当該児童の学校生活を支援していく。
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「笑顔いっぱい 友だちいっぱい みんな大好きゆいの杜小」の合言葉の浸透を図り、活気のある学校づくりを進める。 ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。 ・共遊・児童会集会活動・縦割り班活動等を工夫、改善しながら、児童が生き生きと活動する教育活動を展開する。 	<p>B</p> <p>【【達成状況】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 97.4%、地域住民 100% 保護者 93%、児童 89.6% 教職員と地域住民は数値指標を上回ったが、保護者と児童は下回った。 ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信してきた。 ・工夫しながら児童会活動や縦割り班活動を実施してきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会活動において、合言葉に触れる機会を設けてスローガンにするなど工夫して合言葉の浸透を図り、活気のある学校づくりを進めていく。
	<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で授業の進め方、課題の明確な提示、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図る。 ・朝の「学習タイム」を活用し、課題の質・量・手立て等を工夫しながら基礎学力を確実に定着させる。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・教科担任制により、専門的な見地から授業の質を高める。 ・専科や特別支援教育担当と情報交換を密にしながら共通理解を深め、個に応じた学習指導の充実を図る。 ・学校ホームページ等を利用して、一人一授業や板書の様子を公開する機会を多くする。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 児童 95.8%、教職員 97.4% 保護者 79.2% 児童と教職員は数値指標を上回ったが、保護者は下回った。 ・授業の進め方や板書の仕方については、共通理解や共通実践が進んでいる。 ・個に応じた指導、特別支援学級、日本語指導、かがやきルームの対応等により、児童一人一人のニーズに応じて効果的に支援することができた。 ・教科担任制の効果的な実施により、学力向上を図ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・算数の習熟度別学習や課題の出し方等で、個に応じた学びができるように指導を工夫していく。 ・特別支援教育担当、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。 ・学力調査の結果を周知したり、学校ホームページ等を利用して、一人一授業や板書の様子を公開したりする機会を増やしていく。

<p>目 指 す 児 童 の 姿</p>	<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や授業の準備等、学年や分掌内の役割分担を的確に行い、連携を密にして教育活動を行う。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT等と積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。 ・個々の役割と責任を明確にした上で、主務者の負担軽減をするために、複数の担当職員が確実な業務分担をして相互に協力しながら業務を行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100% 数値目標を上回った。 ・個々の役割を行うだけでなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の役割と責任を明確にした上で、複数の担当職員が確実な業務分担をして相互に協力しながら業務を行う。
	<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、取組を着実に実施し、業務の効率化を図る。 ・優先順位を付けて業務に当たるなど、個々の教職員の取組を継続する。 ・リフレッシュデーを毎月設定し、着実に実行する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100% 数値目標を上回った。 ・「働き方改革プロジェクト」の取組を着実に実施し、業務の効率化を図っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を付けて業務に当たるなど、個々の教職員の取組を継続する。 ・月に1回のリフレッシュデーを着実に実行する。
	<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。</p> <p>○地域学校園の各部会の検討を通して、小中学校の教職員が目標を共有しながら取組を進める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 児童が 78.5%、教職員 100% 教職員は数値目標を上回ったが、児童は下回った。 ・あいさつ運動や乗り入れ授業、宮っ子チャレンジなど、中学生と児童が直接関わる活動を行うことができた。 ・児童生徒指導強化連絡会や巡回指導の機会に中学校や各小学校との情報交換を行い、児童生徒に関する共通理解や学校園としての課題の把握に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動や乗り入れ授業、宮っ子チャレンジなどの際には、地域学校園としての意識を持って活動に参加できるようにする。
	<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や企業等の出前授業を効果的に取り入れたり、地域の幼稚園、保育園との交流を実施したりするなど、専門的、体験的な学習活動を行う。 ・地域協議会やPTA常任理事会等と連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 94.9%、地域住民 100% 児童 87.3%、保護者 81% 児童・地域住民・教職員は数値目標を上回ったが、保護者は下回った。 ・地域の教育力を生かした活動は、地域協議会やPTAと連携し成果を上げることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材・地域教材を活用した学習活動を工夫していく。

<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上 〔A22再掲〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会を中心に、学校・家庭・地域が一体となって、児童の安全確保や健全育成の取組を更に強化する。 ・地域コーディネーターを通して、保護者・地域・企業等と連携したり、学校支援ボランティアを活用したりしながら授業や学校行事における教育活動の充実を目指す。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 94.9%、地域住民 100% 児童 87.3%、保護者 81% 児童・教職員・地域住民は数値目標を上回ったが、保護者は下回った。 ・地域や保護者と連携した登下校の見守り等を継続して実施し、児童の安全を確保できた。 ・地域コーディネーターやPTA役員を通して、可能な限り教育活動の充実を図ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア人材バンクを蓄積していく。 ・地域の教育機関や企業等との連携を強化していく。
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・各種、学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。 ・校内や学校周辺で危険が予想されるときには、メールや学校だより等により周知を図るとともに、学校の取組を積極的に発信する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100%、保護者 94.7% いずれも数値目標を上回った。 ・毎月の安全点検を実施し、危険箇所の早期発見や事故の未然防止に努めた。 ・校内電話が充実していることで、様々な報道相が迅速に行えた。 ・校庭の遊具を安全にトラブルなく使用させるために、学年に応じた優先を表示した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの方が来校する学校行事では、いろいろな立場での動線を考え、計画に反映する。 ・学校での安全に関する活動や学校周辺での危険が予想される場面を学校ホームページへの掲載で発信する。 ・昇降口前のアスファルト部分を走って通る児童が依然多いので、定期的に指導する。 ・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・各種、学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。

<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上 〔A10再掲〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやデジタル教材等、ICT機器の整備に努めるとともに、授業研究会を通し、教職員の指導力向上を図る。 ・導入された一人一台タブレットを用いて、互いの意見を交流させるなど、発達段階に応じた活用法を模索していく。 ・教科書の内容に沿った資料をそろえ、授業に対応できるよう蔵書整備を行う。全職員が幅広い資料を選択できる環境づくりを行う。 ・6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで、自身の読書傾向を知る手掛かりにし、読書の質を高めていく。 ・教職員で選定した必読図書を学級文庫に置くことで、児童が多くの分類の図書に触れ、興味に偏りがでないようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 児童 89.9%，教職員 100% いずれも数値指標を上回った。 ・ICT支援員の協力を得て、教材の作成や各種機能の操作などの自己研鑽に努め、指導力の向上を図った。 ・学校図書館司書の協力を得て、学校図書館や市立図書館から授業に必要な資料や図書を準備し、充実した調べ学習ができた。 ・読書週間を設定するなどして、児童が本に親しむ機会を意図的に増やし、興味関心を高めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容に沿った資料をそろえ、授業に対応できるよう蔵書整備を行う。幅広い資料を選定できるよう、全職員が資料を選択できる環境づくりを行う。 ・6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで、自身の読書傾向を知る手掛かりにし、読書の質を高めていく。 ・教職員で選定した必読図書を学級文庫にプラスしていくことで、児童が多くの分類の図書に触れ、興味に偏りがでないようにする。 ・タブレットを用いて互いの意見を交流させるなど、発達段階に応じた使用の機会や活用法を模索していく。
<p>B2 教職員は学校課題に関する研究やカリキュラムマネジメントに取り組み、児童のコミュニケーション力を身に付けようとしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。 ・新型コロナウイルス感染症予防に配慮しながら主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。 ・学校課題の研究を深めることで、コミュニケーション力を伸ばしていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100% 数値指標を上回った。 ・児童のコミュニケーション力の実態を明らかにし、身に付けたい力やそのための手立てを話し合いながら実践を進めた。 ・一人一授業や授業研究会等を通して、指導内容や指導方法の工夫改善について意見交換を行った。 ・教科担任制の導入やローテーション授業により、十分な授業研究の時間が確保でき、指導の工夫改善につながった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制の研究を深めることで、各教科の特性を効果的に活用させ、コミュニケーション力を伸ばしていく。 ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。

本校の特色・課題等	<p>B3 教科担任制によって、児童への教育効果を上げようとしている。</p> <p>【数値目標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する教材研究を深め、専門的見地から授業改善に努める。 ・教職員間で児童の学習や生活に関する情報交換を密に行う。 ・児童の興味関心や良さをき出した授業展開を実践する。 ・HPや学校だより・学年だよりに教科指導の情報を掲載し、教科担任制についての情報発信に努めていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100%, 児童 92.2%, 保護者 86.6% 教職員・児童は数値目標を上回ったが、保護者は下回った。 ・担当する教科の授業改善に努め、児童の興味関心や良さを引き出した授業展開を実践することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに授業改善に努め、児童の興味関心や良さをさらに引き出していく。 ・HPや学年だより（5・6年）に教科指導の情報を掲載し、教科担任制についての情報発信に努めていく。
	<p>B4 学校は、児童が人と関わり、豊かな人間関係づくりのできる教育活動を推進している。</p> <p>【数値目標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「結ゆいプロジェクト」を推進し、児童一人一人が人との関わりを意識し、めあてをもち、充実感や達成感を味わえる取組を積極的に行う。 ・縦割り班活動や異学年交流の充実を図り、互いを認め、互いを大切にする心を育てる。 <p>【清掃、レインボータイム等】</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合 教職員 100%, 地域住民 100% 児童 88.7%, 保護者 75% 教職員・地域住民は、数値目標を上回ったが、児童・保護者は下回った。 ・なかよしまつりを行ったりレインボータイムや清掃で異学年交流を行ったりすることによって、上学年に憧れの気持ちや互いを尊重する気持ちをもつことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPや学年だよりで情報を発信していくとともに、保護者や地域の方に写真を使う等し、学年で工夫しながらPRをする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校は開校2年目となり、学校教育目標の具現化に向け、「笑顔いっぱい 友だちいっぱい みんな大好きゆいの杜小」を合言葉に教育活動の充実を図ってきた。今年度は、保護者・地域住民の肯定的回答が向上したものがあることから、感染症対策をしながら学校において実施する活動が増え、児童が学校の良さを感じていることや保護者や地域の方が温かく見守ってくださっていることがうかがえる。

学校マネジメント全体アンケートの結果で、肯定的回答の割合が増加した項目として「児童生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」がある。児童・保護者・地域・教職員とも90%以上の肯定的回答となっており、縦割り班活動等による異学年交流や地域や家庭の協力を得て教育活動を進める中で思いやりのある豊かな心情が育まれていると考えられる。「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」は、保護者・地域とも肯定的回答が増加しており、あいさつの意識が高まっていることが分かる。教職員は課題と感じているので、保護者・地域と共にあいさつの輪を広げていきたい。「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている」の肯定的回答が増加しているのは、中学校教員の乗り入れ授業や小中合同でのあいさつ運動が実施できたためと思われる。

一方で課題となる項目としては、「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」の保護者の肯定的回答が下がっていることである。今年度は、児童のコミュニケーション力を高めることを目指して国語を中心とした指導法や教科担任制の研究を進めてきたが、1学級30人以上の児童へのきめ細やかな指導や教科担任間での有効な情報共有等についてさらに研究していきたい。

7 学校関係者評価

- ・地域でもあいさつをしてくれる児童が増えてきて、うれしく感じている。
- ・中学校の先生が小学校で授業をしてくれたことは、中学校でも頑張りたいという児童の意欲を高めることにつながってよいことだと思う。
- ・児童は低学年から落ち着いていて、集中して学習ができており、タブレットもよく活用されている。
- ・登下校時や清掃中に高学年の児童が、下級生をよく世話をしている姿が見られる。
- ・施設が新しいので、体育館等のよい状態を維持してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様から寄せられた御意見を真摯に受け止め、次年度の方策について検討していく。

【学校運営】

- ・児童が主体的に活動できる場を意図的・計画的に設定し取組を工夫していくとともに、個に応じた支援を充実させることで児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。
- ・人との関わりを大切に「結ゆいプロジェクト」を通して、コミュニケーション力を高めるとともに良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できるようにしていく。
- ・各種便りや学校ホームページ、授業参観等を通して積極的に情報を発信し、学校の取組を理解していただくとともに、家庭や地域と連携を図り、協力や支援を得られるように努めていく。

【学習指導】

- 家庭学習の充実・習慣化を図るため、「家庭学習ふり返り週間」を年2回設け保護者に協力を求める。
- ・高学年を中心に教科担任制を進め、児童の授業への意欲や専門性を高めることができるようにする。
- ・校内研修を通して学習に関する重点目標の共通理解を図り、授業の実践・公開をするとともに自己研修に積極的に取り組み、教職員としての資質・能力や指導力の向上に努めていく。

【児童指導】

- 進んであいさつができるよう、児童の主体的な取組を積極的に支援し、あいさつ運動等の活動を活性化していく。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携して支援ができるよう協力を求める。
- ・いじめの未然防止・早期発見・対応・解決に向けた学校の取組を伝え、学校の信頼をより高められるよう努めていく。また、いじめ防止に向けた児童の主体的な活動を支援するとともに、友達とよい関係を築く力を身に付けさせる。
- ・情報交換の機会を十分確保し、支援を必要とする児童への対応を組織的に推進していきけるようにする。

【健康（体力・保健・食育・安全）】

- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を基に、教科体育において十分な運動量を確保するとともに指導法を工夫し、運動への関心を高め、体力の向上を図る。
- 水泳、鉄棒、縄跳びのがんばりカードの活用や健康教育と食育の便りの発行等、地域学校園共通の取組を継続していく。
- ・「自らの健康」について考えさせ、健康的な生活を営むために、体力の維持向上及び食育を関連させた健康指導の充実を図る。